

# TOKIWA

2025

WINTER

vol.218

INTERVIEW

ときわ園の魅力 — 歴史、伝統、そして新たなことに挑戦する探求心



研修や実習等、様々な形でときわ園に関わっていただいている、城西国際大学助教の松浦弘典先生にインタビューしました。

### — 松浦先生は大学で福祉や介護を研究しておられますが、どのようなきっかけでこのお仕事をするようになったのでしょうか？

おじいちゃん・おばあちゃん子だったので、「祖父母世代の方々の役に立つ仕事がしたい」と思ったのが介護現場に飛び込んだきっかけです。大学を卒業し、埼玉県の小規模多機能施設や認知症高齢者グループホームで12年ほど介護職と相談職に携わっていました。認知症や精神疾患などで意思を表明することが難しい方と関わらせていただき、「本当にその方の思いを汲み取ったケアが提供できているのか？」と自問自答する日々でした。そこで、認知症の方からケアに対する思いや考えなどの情報を効果的に収集し、ケアに活かす方法を研究したいとの思いが強くなり大学教員になりました。

### — これまでの研究成果の幾つかを紹介していただけませんか？

現在は、「介護職員が行うアセスメントにおける情報収集や情報把握の方法」に関する研究を行っています。サービスの質の向上には、利用者のケアに対する満足・不満足や思いを反映することが不可欠だと考えています。高齢者施設の介護職員を対象に行った調査では、介護職員は「利用者の方に分かりやすく端的に質問し、回答する時間を十分に設け、相手の質問に対する理解の程度を、表情や言動の観

察から把握し、必要に応じて回答しやすくなるよう選択肢を提示するなど、意思決定を支援しながら情報把握している」ことが明らかになりました。

### — どのような苦勞がこれまでありましたか？

介護保険制度が施行された2000～2021年に発表された論文を基に介護職員の情報把握に関する課題を整理したところ、介護施設では「情報把握に関する知識や技術が習得できる職員教育を実施すること」が課題の一つであることが分かりました。介護職員が介護現場で、意思を表明しづらい利用者の方から効果的に情報把握するためには、どのような研修プログラムやツールを開発すればよいか試行錯誤しています。ぜひ、ときわ園の職員・利用者の皆様から忌憚のないご意見やお知恵をいただけますと幸いです。

### — どのような時にこの仕事をしていてよかったと思われますか？

大学には「福祉現場で誰かの役に立ちたい」との夢を掲げて入学される学生も少なくありません。これまで沢山の学生に支えられて生きてきた学生が、授業や実習を乗り越えて巣立っていく姿を目の当たりにしたときは大学教員をしていて良かったと思います。また、施設訪問や実習巡回などで大学を巣立っていった卒業生の皆さんが、福祉専門職として活躍されている姿を見た際



城西国際大学助教 松浦弘典先生

は本当に嬉しい気持ちになります。今年の夏にときわ園をご見学させていただいた際は、まさにこの瞬間でした。

### — ときわ園にはどのような魅力があるか教えていただけますか？

歴史や伝統に加え、新たなことに挑戦される探求心を併せ持つところが魅力だと感じています。例えば、施設や職員の方々が醸し出す落ち着いた温かみのある雰囲気に加え、これまで培われてきた利用者の方に寄り添った介護実践、そして外国人介護職員の受け入れなどが挙げられると思います。また、本学では介護福祉士や社会福祉士実習でお世話になっていますが、学生に対して丁寧にご指導いただける環境であることも魅力の一つです。

### — ときわ園には今後どんなことを期待しますか？

これまで以上に職員・ご利用者の皆様と交流させていただくことを期待しています。また、本学の食堂やカフェもリニューアルしましたので、ぜひご利用者の皆様も交えてお茶会などできればよいなと思っています。この広報誌を通して、ときわ園とご縁をもたせていただいていることに感謝申し上げます。

松浦先生、この度はインタビューに応じくださりありがとうございました。

## 天井知らずの食品値上げ

2025年を迎え、謹んでご挨拶申し上げます。日頃より皆様の温かいご支援とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

2024年は能登半島地震に始まり、日本国内では各地で豪雨災害が発生し、災害の多い一年となりました。災害の影響は食品などの値上がりにつながり、間接的に家計にも影響を及ぼしています。帝国データバンクの調査によると、2024年に値上げされた食品は1万2,520品目で、値上げ率の平均は17%でした。こうした値上げにより家計に占める食費の割合を示すエンゲル係数は29.3%という高水準に達したという総務省の報告もあります。一般的に、エンゲル係数が30%を超えると、生活水準が低く、経済的な余裕が少ない可能性があるかと判断されるようです。

最近ではキャッシュレス決済の機会が増え、「目に見えないお金」を使い過ぎて家計を圧迫してしまう心配も

あります。まさに「富は必ずワシのように翼を生やして空に飛び去る」という言葉の通りです。気がつかないうちにお金に羽が生えて飛んでいってしまう感じです。賃上げが物価上昇に追いついていない状況が続き、上手に家計をやりくりしていく知恵がますます必要になってくると思います。食品については、特売や季節の食材を利用するなどの工夫をして、賢い消費者になることも大切だと感じます。

2025年も3,933品目が平均17%値上げされることが予想されてお

り、食品の値上がりは止まりません。こうした状況から、ときわ園の給食に関する費用も増加しており、今後もその傾向が続くことが予想されます。ときわ園としては、費用と質のバランスを考えながらコスト上昇を抑える努力や工夫を行い、できる限り皆様に影響が及ばないよう努力して参りたいと思っております。

本年も引き続き、皆様のご期待に沿えるよう、サービスの質向上に努めて参りますので、ご理解とご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



## 益々必要になるケアマネージャー

ケアプランセンターはいろいろ  
管理者  
狩俣 成雄



介護支援専門員（ケアマネージャー）は介護保険法と同時期2000年4月に介護サービスの調整役として定められました。当初は介護保険の花形職種でしたが、そのケアマネージャーが現在減り続けている状況をご存知でしょうか？

要因としては、①求められる業務範囲の拡大で負担が大きい（どこからどこまでがケアマネージャーの業務なのか？）②労働環境・給与待遇の問題（なぜ処遇改善加算の対象外なのか、給与の逆転現象）③ケアマネージャー更

新制度（5年ごとの資格研修が義務付で受講料や受講時間の負担）等が挙げられています。

ケアマネージャー数は現在11万7千人程でケアマネージャーの平均年齢は53歳。50歳以上が6割弱に達しているとの事。ケアマネージャーの高齢化が進んでいる状況もあり2040年には8万人程足りなくなると試算されています。超高齢化社会を迎えるに当たり、益々必要になるのはケアマネージャーです。魅力ある職種にするための改善が求められていると言えるでしょう。



ケアプラン作成中の狩俣ケアマネージャー

車椅子を使って学生を教えている

生活支援技術の授業風景



# デイサービスの活動

季節は急に冬へと変わり朝晩は冷えるようになりましたが、こもればの皆様は活気にあふれております。夏祭りに敬老会等の行事、新しいレクリエーションや工作を楽しんでいただいております。



チーム対抗戦!



新レク!



夏祭り記念!



ハイ!ピース!



パースデー写真!



敬老プレゼント



カラマツと共!



ソフトクリームイベント!



万華鏡の出来上がり!



出来上がりの笑み



お誕生日ボード



おめでとうございます!



敬老会のお祝い



記念撮影!



夏祭り!



射的の構えはいかが?

## こもればの素晴らしさ

デイサービスセンターこもれば  
介護職員  
古賀 奈緒美



緑のトンネルを抜けて見えてくる、大きなどんぐりの木。豊かな自然に囲まれるときわ園。私のときわ園の第一印象は、一言で表すと「森」でした。ときわ園に入職してまだ一年にも満たない私ですが、デイサービスセンターこもればの一員として日々奮闘しながらもご利用者、先輩職員と楽しい時間を過ごさせていただいています。

他施設でも介護に携わっていましたが、こもればはゆったりとしており、とても穏やかなデイサービスです。またご利用者と職員との会話が早く、アット

ホームな雰囲気も感じられます。入社したての頃、上司から「ありがとうございます。という言葉をご利用者に多く伝えられるような支援を心がけて」とのアドバイスをいただきました。この言葉通り、こもればは毎日「ありがとうございます」と色々な所や場面で、全ての職員から聞かれます。

職員が何でも介助するのではなく、ご利用者が率先して役割を担っていただけるように働きかける、「感謝を伝える支援」を大切にしています。これまで感謝を

いただくことが多く、恥ずかしながらそれが当たり前のような感覚でいました。新たに学び始めている気持ちを忘れずに過ごしていきたいと思っております。



七夕飾り

## 介護に若さと情熱を!

本館2階介護職員  
根本 柚希



「えー、なんでそんな仕事できるの、絶対に嫌。」これは私が同級生から言われた言葉です。私は小さい頃から母子家庭で育って来て、祖父がお父さんみたいな感覚で、何をしても一緒に過ごしてきました。しかし、祖父は病気がちで、入退院を繰り返していました。そのような祖父を見ていた私は、常に「何かできないか」と考え、看護学校に通うもうまくいかず、そこから介護の道に進みました。

この道に進み、私は決して後悔はしていません。体力仕事で悩むこと

や考えることも多い仕事ですが、計り知れないほどたくさん得るものがあります。ご利用者からの「笑顔」と「ありがとう」の言葉は私の活力です。これこそ「人」と「人」を繋ぐ仕事だから得られる宝物だと思います。

しかし、この仕事は常に人手が足りていないとは言えません。そのような世の中だからこそ、偏見を減らし、誰もが通る「若い」という道を、少しだけ私たち若手が手を差し伸べられれば、みんなが幸せに過ごしていけると思

のです。そのことを若い世代の人達に、もっと考えてもらいたい。私はこれからは誰かの役に立っていきたくです。



飲み物の介助

車椅子の移乗介助

## いつまでもお元気で ～敬老会のご報告～

昨年の敬老会は、新型コロナウイルスが第5類になったとはいえ、ときわ園としてはまだまだ感染症対策の強化中でしたので、ご家族とご利用者との直接的なふれあいを控えさせていただきました。結果としてご家族の参加が少なく、ご利用者にとっても物足りないイベントだったと思います。今年は、引き続き感染症対策を続けつつもご家族とのふれあいの機会も作りたいと考え、密を避けるために、時間差で4つのフロアごとに実施し、外部の少人数ボランティアを招待して音楽イベントも行うことにしました。新館はそれぞれフロアの食堂で、本館はデイルームで1階と2階に分けての開催としました。

敬老会当日の9月22日(日)は、比較的天気良く、残暑が続いてい

ましたが過ごしやすい1日となりました。各フロアでは約1時間の予定で、午前本館1階と新館3階が、午後本館2階と新館2階が敬老会を行いました。それぞれ、始めに理事長や施設長からの挨拶があり、その後、85歳以上の方など特別な高齢者に花束が贈呈されました。その後に、ボランティアの穴山様によるクラリネット演奏を楽しみました。演奏後は、全てのご利用者にメッセージを読み、ささやかなプレゼントを渡しました。

穴山様は長年、県内のいくつかの高校で吹奏楽部の指導をしてこられ、現在は緑区吹奏楽団にて常任指揮者兼音楽監督として精力的に活動しておられます。今回、穴山様には4つのフロアで順番に演奏していただくというお願いをしまい

業務サポート部門  
リーダー  
田村 知之



ましたが、快く引き受けてくださいました。約30分の演奏を4回繰り返すというのはハードであったかもしれませんが、軽快な演奏と共に、皆様を楽しませるトークと選曲で盛り上げてくださいました。新館2階では、ご利用者のご家族の中に穴山様の昔の教え子がおられ、数十年ぶりに再会するという嬉しいサプライズもありました。

フロアによっては大勢のご家族が来てくださり、ご利用者との歓談を楽しんでいただけました。やはり、直接ご家族とお会いできるのが一番なのだと感じました。感染症との闘いはずっと続いていきますが、工夫しながらできることを探して、ご利用者とご家族の満足度向上のためにチャレンジしていきたいと思います。

## 他人事ではない防災対策

業務サポート部門  
出雲 信好



ときわ園では防災対策として様々な形の防災訓練を実施しています。通常実施している避難訓練に加えて、2024年7月には「目黒巻き」(※)を使用した防災教育がありました。介護だけでなく、事務所、医務、厨房、設備など、各職種の職員が災害発生時に自分の周りで起きる事柄を想定し、どのように対応できるかを考える良い機会になりました。また10月には消防署の職員による図上訓練がありました。ストップウォッチとメトロノームを使い、施設の平面図上で煙や人などの駒を動かしながら、火災発生からの各自の動きをシミュレーションするものです。ベッド上のご利用者を車椅子に移乗してもらうのに約80秒かかることなどを考えて、ご利用者を安全な場所まで避難誘導する最善の手段やルートなどを話し合いました。

とても実践的な訓練でした。高齢者施設では、たこ足配線などの電気火災が増えているとのことです。避難経路や災害備蓄の確認の他にも、日頃の整理整頓やこまめな清掃なども防災の大切な要素かもしれ

ません。今後も当事者意識をもって防災に取り組みたいと思います。  
※「目黒巻き」とは、東京大学の防災を専門とする目黒公郎教授が考案したもので、災害発生時に自分はどうに行動するかを時系列的に記入していくツールです。



図上訓練でタイムを計りながら避難誘導

## 福祉に貢献する宇宙開発

施設長  
酒井 章年



福祉と宇宙開発、似ても似つかない分野のように感じます。ところが、実際にはそうではありません。というより、密接な関係があるのです。

近年、大勢の宇宙飛行士が宇宙に滞在するようになりました。そこでは、地上で生活するようにはいかず、様々な工夫や製品開発が必要となります。例えば、歯磨き。宇宙では、歯磨きをした後のうがい水を吐き出すわけにはいきません。吐き出したら、その水が生活空間に浮遊してしまうことになるからです。そもそも、宇宙船や宇宙ステーションには洗面台と

いうものはありません。そこで、開発されたのは飲み込んでよい歯磨き剤(オーラルピース)です。歯磨き剤を飲み込むことをイメージしただけでも抵抗があるかもしれません。しかし実際に飲み込んでみると、ミントの味がするということです。もちろん健康面でも害はありません。介護を必要とする高齢者の中には、歯磨き剤を吐き出すのが困難な方も少なくありません。そのような方々のために、宇宙飛行士のために開発された、このような歯磨き剤を応用することができます。

歯磨き剤は、福祉に貢献する宇宙開発のほんの一つの例に過ぎません。今後も宇宙開発を通して、福祉や介護に役立つ製品やアイデアが生み出されることを期待しています。



宇宙遊泳中の宇宙飛行士 (NASA提供)



挨拶する三枝理事長



演奏中の穴山様



花束贈呈



心からのお手紙ありがとう

# 活動ログ

9/14

看板化粧直し

特別養護老人ホームときわ園の看板の塗装工事が行われ、9月14日に無事に完了しました。足場が解体され高さ約5.5mの巨大な看板が姿を現しました。磨き作業が行われた文字も、より浮き立つようになりました。平成27年11月25日に設置されたこの看板、早いもので9年経過しましたが、化粧直しをすることにより新たなスタートを切ることになりました。ときわ園にお越しの際には、ロートアイアン製のこの美しい看板、

塗装工事が終わって綺麗になった姿をぜひご覧ください。



看板化粧直し

9/26

小林様ピアノ演奏

デイサービスセンターこもればでは、9月26日、ボランティアの小林玄様をお迎えし、ピアノ演奏会を開きました。小林様は音楽を教える熟練したピアノの演奏家です。曲目は、「渚のアデリーヌ」（リチャード・クレイダーマン）、「幻想即興曲」（ショパン作曲）、「子犬のワルツ」（ショパン作曲）、「浜辺のうた（日

本歌曲より）」で、どれも名曲。「渚のアデリーヌ」は以前から職員のリクエスト曲で、心に染み入る演奏でした。「浜辺のうた」はご利用者にとっても馴染み深い歌で、皆で歌いながら楽しいひと時を過ごしました。



小林様のピアノ演奏に聞き入るご利用者

10/9

ときわ園で働いてみませんか

介護労働安定センターより依頼をいただき、10月9日に介護の仕事に興味を持たれる方々へのプレゼンテーションを行いました。プレゼンターは平野広美介護職長。全部で28名もの方々が出席されました。

紹介させていただいたときわ園の特徴の一つは、多数の外国人職員が働いているという点です。現在5か国の外国人職員が勤務しており、国際色豊かな

環境で介護業務が行われています。また、夜勤補助の職員が配置されているため、夜勤職員は休憩が取りやすく、緊急時にも対応しやすいという点にも関心を示してくださった出席者も少なくありませんでした。さらに、年間の公休は119日としています。

ぜひときわ園で働くこと

を考えてみませんか。皆さんからのお問い合わせを心よりお待ちしております。



ときわ園について説明する平野広美介護職長

## 編集後記

つい最近まで「暑い、暑い」と言っていたのに、あっという間に真冬が来てしまいました。時の流れは本当に早いものです。子供のころ1年は非常に長く感じましたが、年齢を重ねるごとに時の経過は早く感じるものです。ぜひ1日1日を大切にしなければという思いに駆られます。新しい年を迎え、今年も1年、皆様が有意義に過ごすことができるよう心より願っております。何よりご利用者がときわ園で充実した毎日を送ることができるよう、私たちも一生懸命にがんばります！

